

太陽光ファンド第2弾

AAP 個人向けに出資募る



ファンド事業に使う太陽光発電の設備 (三原市)

不動産投資などのALLアセットパートナーズ(AAP、広島市中区)は10日、個人向けの太陽光発電ファンド事業の第2弾を始める。既に完売した第1弾よりも種類を増やす。

事業のための合同会社を設けて投資家の出資を募る。三原市と東広島市、大竹市の5カ所にある出力各49・5誌の設備で発電し、AAPが再生可能エネルギー

ー固定価格買い取り制度(FIT)で電力会社に売電する。収入を基に合同会社が投資家に分配金を払う。

運用期間は10年と20年の2種類。第1弾は20年だけだったが、より短期間で収益を得たい投資家のために10年も用意した。1口50万円計6千万円分を集める。10月末まで受け付ける。同社は「低金利の中で、個人の安定的な収益を目指

す金融商品として定着させたい」と説明している。

(新山創)